巡回ワークショップ　＠東松島市大曲小学区子ども育成会

むすび塾

Ｍｙ袋になに入れるの？

持ち出し品 常に想定を

東日本大震災の教訓を今後の備えに生かすため、河北新報社は8月21日、巡回ワークショップ「むすび塾」を東松島市の大曲市民センターで開いた。東北以外の開催も含めて通算35回目。大曲小の5、6年生7人と、大曲小学区子ども育成会の保護者4人が参加した。避難生活で役立ちそうな身の回りの物や、非常持ち出し袋の中身について考えながら、共助について学んだ。

持ち出し品のワークショップを行い、減災・復興支援機構（東京）の宮下加奈専務理事が講師を務めた。

ガムテープや針金ハンガー、ラップなど15品目を机の上に用意。大規模災害が発生し、電気や水道、ガスが止まった場合を想定して、参加者は避難所で役立てた自印になると言うのは、油性ペン。参加者は6年の避難経験者。11は「雨漏りや、複数を組み合わせた活用法を話し合った」と話した。

ペットボトルを渡んだ6年の近藤遥賀君。11は「雨漏りや、複数を組み合わせた活用法を話し合った」と話した。窓ガラスに「地震が止まったら、飲みます」と書けば、避難して、参加者は避難所で役に立てました」と書けば、避難して、参加者は避難所で役に立てました」と書けば、避難して、参加者は避難所で役に立てました